

## ●第 26 回委員会 会議要点録

平成 19 年 1 月 23 日 18 時 30 分～20 時 30 分  
多摩市役所 特別会議室

出席者：檜垣正巳委員長 白鳥光洋副委員長 岡崎和子委員 小澤尚子委員 武智秀之委員 堤香苗委員

事務局：企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主事

### 自治推進委員会の活動総括と今後の取り組みについて

- 自治推進委員会の活動の今後の方向性について
- 次期委員会へつなぐ検討テーマや行政評価の課題等について

### 自治の推進について

- 市民としての経験や思いを踏まえた多摩市の自治に関する自由な提案

## 【自治推進委員会】

委員 第 26 回自治推進委員会を開催する。今回は 2 年にわたり開催してきた、第 1 期自治推進委員会の最後の会として開催する。これまでの活動の総括と自治推進委員会の今後の取り組みについて、次期委員会へ申し送りとして提案する内容を決定し、提出したい。

前回の委員会までに議論してきた、次期委員会への提案を取りまとめた資料を前もって事務局より送付した。この内容について、事前に各委員から出された意見を踏まえ変更・修正したものを今回の資料として配布している。この変更・修正部分について事務局より説明をお願いする。

事務局 委員からの意見により行った変更・修正部分について説明する。まず、次期委員会への提案の提出先について、第二期自治推進委員会宛にするという意見があったが、次期委員会はまだ存在していないため、提案は市長へ提出する形とし、市長より第 2 期委員会へ第 1 期委員会からの申し送り事項として提案を伝えるという趣旨から、市長宛の提出とした。また、いくつかの文言の削除・修正や文章の整理を行った。

委員 修正案に対し何か意見はあるか。

委員 「2. これまでの活動の問題点」の前段部分については、本来、表現しようとした趣旨からいって誤解を生む表現なので、修正が必要。

委員 2. の(2)の記述の中で、『自治推進委員会の役割が非常に大きいため、

具体的に規定されていない』とあるが、自治推進委員会の役割は、自主的な活動の部分が大きくて自分達でやることを決めなくてはならなかった。ここは、『…市長からの諮問への答申のほか、自主的な活動も含まれるため、その課題を見出すのに時間がかかった』と修正する。

委員 自治推進委員会の実質的な活動、自主的な活動が何か十分把握しきれないまま終わってしまった点がある。

委員 同じく2. の(3)の記述の中で『自治推進委員会が行うべき「自治の推進」は、実質的には限られたものになる』とあるが、実際には、限られてはいない。機能が限定されていないことが問題だ。

委員 その前にある、『市行政の各分野で行われている様々な市民自治(参画)と調整・連携を図りながら、「自治の推進」について検討する』という言い方に修正する。

委員 「3. 今後の多摩市自治推進委員会の展望」-「(1)市民参画白書」-「①(マル1)検証・検討の視点」-「1)参加の形態」のカッコ書きにあるように、参加者の“属性”と表現するものなのか。参加者の“特徴”でどうか。

委員 参加者の特徴というと、属性より大きくりの枠になる。マーケティングでは属性を使うので違和感はない。属性と特徴の両方使ったらどうか。

委員 同じく「③(マル3)構成」で、市民参画白書を『6つの構成にする』と断定してしまうのではなく、表現を柔らかく『主な構成要素は次の通りとする』というように表現を柔らかくし、次期委員会での裁量の余地を残す。

委員 「③(マル3)構成」の最初で、「行政参画」「行政参画」を謳わず、後段で纏めてはどうか。

委員 「行政参画」は行政への参画、「コミュニティ参画」は市民が主体の活動を指す。

委員 「コミュニティ参画」は「行政参画」以外の市民の自主的な活動を指すので、前段ではその旨を記述する。また、後段の『特徴のある団体の紹介とリストの掲載』については特徴ある団体の規定が出来ないので削除する。

「4. 市民参画を深めるために」の市民参画の手段の分類にある、『(2)市民活動参画』と『(3)自治活動参画』との違いは何か。

委員 市民活動参画は、市民が主体のサークル的な活動であり、自治活動参画は、市民が誰かのために何かをする活動である。自治活動はサークル活動とは別にしたほうがいいと考えた。これからは趣味のサークル活動を行いつつ、自治活動も行うことが必要だろう。

コミュニティセンターや公民館の事業は、市(行政)側から見れば市の事業であり、その事業への参画は市の政策への参画となるがだが、市民側からすれば、行政参画しているという意識はなく、サークル活動を行っていることになる。

委員 分類の並び方の問題か。市を基準にするなら「(1)市の政策参画」「(4)事業参

画」「(2)市民活動参画」「(3)自治活動参画」になるだろうし、市民側からみれば「(2)市民活動参画」「(3)自治活動参画」「(4)事業参画」「(1)市の政策参画」になる。「(2)市民活動参画」「(3)自治活動参画」「(1)市の政策参画」「(4)事業参画」とすれば、市民参画の度合いが増えていく並びとなるだろう。

委員 「(1)市の政策参画」と「(4)事業参画」は市側からみたもの。市を主体とするか、市民を主体とするかで変わってくる。

委員 自主サークル活動に市が関与する必要があるのか。

委員 生きがい探しのようなものもあるし、市の補助が出ているものもある。

委員 参画の奨励ではなく活動の奨励になるのではないか。コミュニティセンターは市民活動参画に位置付けられているが、コミュニティセンター運営協議会の活動も含まれるのか。

委員 コミュニティセンター運営協議会を指しているのではなく、コミュニティセンターや公民館の事業に参加している人が対象であり、今後、コミュニティセンター等は、増加が見込まれる参加者に対する受け皿となるだろう。

委員 趣味と公益の境界はつけにくいものだ。

委員 今後は趣味と自治を兼ねてやっていかないとだめだ。

委員 「(2)市民活動参画」はより積極的に参加したい人の活動であり、「(3)自治活動参画」は地域活動としてなくては困る部分である。「(2)市民活動参画」があって、「(3)自治活動参画」や「(1)市の政策参画」につながっていくのではないか。

委員 言葉遣いの問題か。「(2)市民活動参画」と「(3)自治活動参画」を一緒にしてはどうか。「(1)市民活動参画」「(2)政策への参画」「(3)事業参画」とする。これに伴い、その後の課題の記述の内容や順番を修正する。『団塊の世代が地域に帰還することにより・・・』という部分は、『団塊の世代の地域活動が活発になることにより・・・』とする。

委員 市民自治活動に関心をもつ第1歩、入門として市民活動参画は意義を持つ活動となる。このことを踏まえ『市民の自治活動へつなぐ一歩として、コミュニティセンターや公民館等による運営のあり方も重要な課題となる・・・』としてはどうか。

委員 最後のまとめの文章中、『・・・本市が参画の実践を広げる段階から、その効果や意味を深める段階にきている・・・』という記述は、参画の実践を広げることを否定するようなイメージになり印象が良くないので、『多摩市がこれまでの参画の実践に基づき、その効果や意味を深める段階に・・・』とする。

委員 以上で内容を確定し、次期委員会への提案とする。この提案を市長に提出し、次期委員会へ申し伝えていただく。

《市長へ次期委員会への提案を提出 以降、市長との懇談》

市長 こうした密度の濃い意見は、多くの市民の方に傍聴していただきたかったが、今回は傍聴人がおらず残念だ。自治推進委員会の運営は手探りの状態のなか行われたものだったが、これからの自治推進委員会のあり方や役割について、今回、具体的な提案を頂くことができ感謝している。参画の実践が幅広く広がり、また深めていくための提案であり、特に実態に即した市民参画白書の作成という提案については、行政も次期委員会と協働して実現に努め今後の成果としていきたい。第1期自治推進委員会の成果は学問のなかでも確立されていない部分ではないか。これは先駆的な取り組みと自負している。自治推進委員会は今後も続けていきたいし、多摩市の中で発展的に形づくっていきたい。今後も委員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

委員 自治基本条例を作っている自治体はどこも条例を作った後の活動が課題となっており、市民も行政模索しながら取り組んでいる。やりたいこととやれること限界がある中で、自治を推進していくことの難しさが課題となっている。多摩市自治推進委員会での取り組みがモデルケースになればいいと思う。

委員 これからが活動の本番という時で任期の2年間が終わってしまった感じだ。委員の皆さん、2年間お疲れ様でした。

以上